

第53回中部日本小児科学会学術集会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: YACHIE, Akihiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00049382

『学会開催報告』

第53回中部日本小児科学会学術集会

The 53rd Regional Meeting of the Japan
Pediatric Society in the Chubu District

金沢大学医薬保健研究域医学系小児科

谷内江昭宏

平成29年8月19日(土)～20日(日)に金沢市文化ホールにおいて、第53回中部日本小児科学会学術集会が開催されました。本学術集会は小児科学に関する臨床解析および研究を促進し、学術の進歩とその普及を図り、小児の健康の増進に寄与することを目的とし、年に1回、中部地区の日本小児科学会会員が集まり、成果を発表、議論しています。今年は11年ぶりに金沢での開催になりました。

19日は各種委員会のほか、恒例の懇親野球大会が開催されました。試合開始前にどしゃぶりの雨に見舞われ開催も危ぶまれましたが、幸いその後天候は回復し、スタッフ、選手、審判員による必死のグラウンド整備により無事に開催できました。金沢大学チームは初戦はサヨナラ負けを喫しましたが、次戦は大差で勝利することができました。

20日の学術集会では、特別講演の講師として、本学皮膚分子病態学の竹原和彦教授をお招きし、「自己抗体から観る膠原病」と題し、抗核抗体の発見の歴史とその意義、その測定法に関する歴史的な経緯、さらに、強皮症や皮膚筋炎における自己抗体とその臨床的意義についてご講演を賜りました。ランチョンセミナー1では、東京医科歯科大学小児科の森尾友宏教授に、抗体産生の基礎と臨床に関するご講演を、ランチョンセミナー2では、福岡看護大学の岡田賢司教授に、4種混合ワクチンに関するご講演を賜りました。また、新生児、神経、循環器、腎臓、川崎病、免疫、膠原病、感染症、血液腫瘍、呼吸器、アレルギー、内分泌代謝、消化器、小児外科と各領域にわたり、合計53の一般演題について、朝から夕方まで、学術集会期間中非常に活発な討論を行うことができました。本学術集会は、小児科学の進歩、小児の健康の増進について、今後の更なる発展を期す活発な発表の場となったと思います。

最後に、本学術集会に参加いただきました会員の方々、本学術集会を開催するにあたりご協力いただきました企業の方々、御後援いただきました石川県、金沢市、そして金沢大学十全医学会の皆様へ深く御礼申し上げます。さらに今回の学会の成功は、学会の企画、運営に最初から最後まで全力を注いで下さった医局スタッフの努力があってこそであったことを申し添えさせて頂き、あらためて感謝の意を表します。

